

〈ICT教育：小学校 外国語活動〉

コミュニケーション能力の素地を育む外国語活動の工夫

— ICTを活用した学び合いを通して（第2学年）—

北谷町立北玉小学校教諭 ゴンザレス 由美子

I テーマ設定の理由

平成29年7月告示の新小学校学習指導要領解説外国語活動編（以下、解説外国語活動編）では、「外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている」と示されている。それを踏まえ、小学校外国語活動の「話すこと」の領域を「やり取り」と「発表」に分け、外国語を用いたコミュニケーション能力の育成を重視した。

北谷町においては小中学校が連携した系統的・段階的な英語教育を推進し、将来を見据えた「国際社会で活躍する人材の育成」を図るため、平成24年度から文部科学省より教育課程特例校の指定を受け、独自の教育課程「英語科」を設置している。そのため、ALTとの連携のもと、低学年で年間12時間、中学年で年間35時間の英語学習で、体験を通して児童のコミュニケーションへの意欲や積極的な態度、リスニング力の向上を目指している。本校ではその経緯を踏まえ、英語科の目標を「（前略）英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を養う」と掲げている。

これまでの英語の授業を振り返ると、学級担任がALTと連携し、歌やゲームなどを通して動作表現や簡単な語句、文を取り入れている。北谷町はALTを幼稚園にも派遣しており、本学級の児童は英語学習をして3年目になる。児童は担任やALTの問いに積極的に答え、楽しんで英語活動に参加しており、聞く力が育ってきている。しかし、一斉授業型の活動で、児童同士の学び合うコミュニケーションは不十分だったと考える。他教科においては学び合い活動を取り入れているものの、他者の思いや考えを聞こうとする積極性に欠け、深い学び合いにつながらないこともあった。

そこで、英語学習において児童の聞く力を更に伸ばすことや、児童同士のコミュニケーションを育み、学び合いを活発にするために工夫が必要である。解説外国語活動編においては、英語に初めて触れる中学年で「聞くこと」の領域で文字に親しむことを目標とする。本学級児童は英語学習3年目になることや発達段階を考えると、文字に親しむことは可能だと考える。そのため、アルファベットを音声で慣れ親しむことや読むことを通して、「聞くこと」の力を高めたい。そして、英語が分かる、読めたと感じる体験を通して、中学年「聞くこと」の領域で、文字の名称の読み方（身の回りの物を表す語句）につなげていきたい。また、児童同士の学び合いを活発にする方法としては、視覚的・聴覚的に効果のあるICTを効果的に活用したいと考える。Skypeを利用した国際交流や、iPadの「ロイロノート・スクール」（以下、「ロイロノート」）を活用し、ペアで写真や動画撮影、お絵描きをする中でパートナーと学び合う。段階を踏みペア、グループ、全体でのやりとりや発表、コミュニケーションを図ることで、学び合いが深まるのではないかと考える。

このように、ICTを活用し、やりとりや発表の場面を増やすことで、児童は相手の気持ちに寄り添い意欲的に学び合い、コミュニケーション能力の素地が育まれると考え、本テーマを設定する。

〈研究仮説〉

英語学習の時間において、ICTを効果的に活用し、やりとりや発表の場面を増やすことにより、児童が意欲的に学び合い、児童のコミュニケーション能力の素地を育むことができるであろう。

II 研究内容

1 児童の実態調査

本研究に取り組むにあたり、検証する児童に英語学習に関する意識調査を 10 月 23 日に実施した。対象児童は、北玉小学校 2 年 2 組児童 29 名（男子 14 名、女子 15 名）である。

94%の児童が「英語を好き・どちらかと言うと好き」と答えている。

授業における学び合い形態に関する調査では、「好き・どちらかと言えば好き」と回答した児童はペア学習で 62%、グループ学習で 73%、全体学習で 45%の結果になった（図 1）。全体学習を「どちらかと言うと嫌い・嫌い」と回答した児童の理由は「はづかしいから・きんちょうするから・話が聞きとりにくいから」と述べている。

アルファベット文字に関するレディネス調査結果を見てみると、全員アルファベットの文字を見たことがあると答え、86%の児童が文字を書くことに興味を持っている。世界の様々な言語の文字を混ぜ、80 文字の中から選ぶという調査をした（図 2）。すると、アルファベットの文字 26 文字中平均 21 文字認識したことが分かった。一方、アルファベットの文字認識で間違いの多かった文字が、J の 8 名、N の 15 名、R の 9 名で、文字の特徴を視覚的に捉えていることが分かる（図 2 の○の文字）。アルファベットの文字を書かせてみると、ほとんどの児童が A、B、C の文字を書くことが出来た。

以上の実態調査結果から、本学級の児童は英語を学ぶことは好きだが、発表する場面になると自分の思いや考えを他者に伝えることに課題があると言える。また、話すことに苦手意識があるので、他者に思いや考えが伝わりにくい原因になっていると言える。文字については、日常生活でアルファベットの文字に触れる機会が多いことから、アルファベットの文字を視覚的、感覚的に捉えていることが分かる。

2 教育課程特例校における本町の低・中学年の目標

本町は教育課程特例校として幼稚園、小学校に A L T を派遣し、幼稚園年間 35 時間、小学校低学年年間 12 時間、中学年年間 35 時間の英語教育を実施している。本町の小学校英語教育目標は以下のとおりである（表 1）。

表 1 本町の英語教育の目標

低学年（1・2 学年）	中学年（3・4 学年）
①外国人と分け隔てなく自然に関わろうとする。	①言語や生活習慣の違いに気づき、積極的に関わろうとする。
②英語を聞いて全身で表現することを楽しむ。	②英語を聞いたり、話したりする活動を楽しむ。
③歌やリズム遊びを通じて英語に慣れ親しむ。	③交流学習等を通して、英語を聞いたり、話したりすることに慣れる。

文部科学省は教育課程特例制度「英語科」の設置に際し、学校又は地域の特色を生かし実施する必要があると述べている。本町においては、発達段階や各教科等の系統性及び体系性へ配慮し、評価、検証、見直しをしていくと示している（2018 年 2 月 13 日、本町英語研究会・英語教育担当者会研修会資料より）。解説外国語活動編では「聞くこと」の領域では文字学習が導入される。アルファベットの文字は、英語学習を始めて 3 年目になる児童の発達段階をみても可能だと考え、文字に慣れ親しんだり読んだりして「聞くこと」の力を高めることを本研究で取り組むこととする。

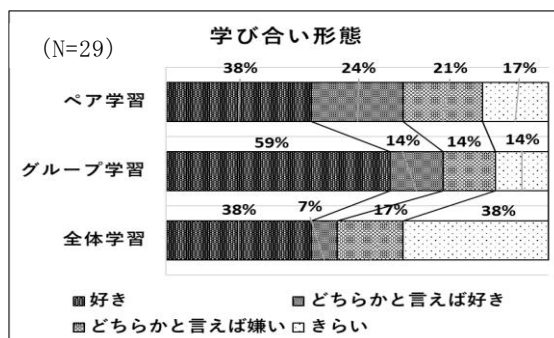


図 1 自分の思いや考えを発表することは好きですか。



図 2 アルファベットの文字認識調査

3 コミュニケーション能力の素地を育む授業実践

外国語活動の目標は「(前略) 外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成すること」とし、目標を3つの柱に分け具体化している(解説外国語活動編)(表2)。それを踏まえ、本学級児童に身に付けさせたい力を以下のとおり設定し、中学年につなげていく。

表2 コミュニケーションを図る素地の3つの柱

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	外国語活動を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
身に付けさせたい力		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
国際交流を通して外国の文化や習慣を知る。歌や絵本等を通して英語の音声やリズム、文字に慣れ親しむ。	簡単な英語表現を繰り返し使い、やりとりを楽しむ。	主体的にペアでのやりとりを楽しみ、グループや全体での活動に慣れ親しむ。

(1) 「知識及び技能」によるコミュニケーションを図る素地

北谷町は教育課程特例校として、オーストラリアの小学校とのテレビ会議システム(Skype)を実施することで学習意欲を高める工夫をしている。

本研究では、国際交流を通して、互いの文化の良さや違いを体験する場とする。また、授業では音声中心の学習をし、歌や絵本で文字を目にする機会を増やし、アルファベットの文字に慣れ親しんだり読んだりする活動を通して聞く力を高め、「知識及び技能」の素地を育みたい。

(2) 「思考力、判断力、表現力等」によるコミュニケーションを図る素地

土谷匡(2017)は「話すことが苦手な生徒」の要因と改善策を以下のように示している(表3)。

表3 「話すことが苦手な生徒」の要因と改善策

〈要因〉	〈改善策〉
①教室で英語を話すことに対する抵抗感	→教師の英語での語りかけを増やす(モデル) こと 生徒の英語を発する機会を増やすこと
②クラスメートと話すことが恥ずかしい	→日常的にペア活動を取り入れるクラスにすること
③間違えることに対する抵抗感	→Accuracy(正確さ)のレベルを下げてスタートすること
④スピーキング活動に慣れていない	→スピーキング活動の回数を増やし、慣れること

児童は話すことを苦手とし、話し合いがうまくいかない要因になっていることが調査で分かっている。土屋の提唱する改善策を参考に、以下の方法で授業における「話すこと」の力を付け、3つの柱の1つである「思考力、判断力、表現力等」の素地を育みたい(表4)。

表4 授業における「話すこと」の改善策

①導入で挨拶や天気、食事、出来事等、small talkで教師の語りかけや教師と児童のやりとりを実施
②展開でペア活動を多く取り入れる
③導入でRulesの確認、発言しやすい良い学級の雰囲気づくり
④段階を踏み、ペア、グループ、全体でのやりとりや発表する場を増やす

(3) 「学びに向かう力、人間性等」によるコミュニケーションを図る素地

言葉によらないジェスチャーや表情もコミュニケーション手段とする(解説外国語活動編)。ペア活動を多く取り入れ、児童同士のやりとりを増やすことで学び合いに慣れ、児童が積極的に他者と関わり、3つの柱の1つである「学びに向かう力、人間性等」の素地を育みたい。

4 音声から文字への導入

(1) 解説外国語活動編における文字学習

2020 年、小学校の外国語教育が大きな変革を迎える。高学年で教科として外国語科を導入し、「話すこと」「聞くこと」に「読むこと」「書くこと」を加える。中学年に外国語活動を導入し、「話すこと」「聞くこと」を中心とした活動が実施される。「聞くこと」は「やり取り」と「発表」の領域に分け、音声面でのコミュニケーションを図る素地を育成する（解説外国語活動編）。今回の改訂で導入される文字学習の具体的な内容を以下にまとめる（表 5）。

表 5 文字学習の具体的な内容（解説外国語活動編）

中学年（3・4 学年）	高学年（5・6 学年）
「聞くこと」 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。	「読むこと」 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。 「書くこと」 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。

英語に初めて触れる中学年児童が大文字・小文字の識別をし、文字の読み方に慣れ親しむことを目標とする。段階を経て高学年、中学校へ文字への学習に接続することを期待している。また、本活動の前段階を具体的に示している（解説外国語活動編）（表 6）。

本学級児童は英語学習 3 年目になり、音声中心の学習をしている。中学年への接続として、低学年において「聞くこと」の領域で文字への導入をしても良い時期ではないかと考える。

(2) 北谷町の実態

北谷町の英語教育担当者の小中連携を目指した教科研究会において、中学校側から課題を挙げている（2017 年 5 月 19 日、本町英語研究会・英語教育担当者会研修会資料より）（表 7）。小学校から中学校への段階で音声から文字への学習に接続できていなかったということである。

平成 24 年から北谷町は教育課程特例校を受け、幼・小・中学校への接続を考え、小学校の低学年で文字の学習を検討しても良いのではないかと考える。

そこで、本研究において、低学年で音声面を重視しつつ、文字学習の前段階を導入し、中学年、高学年の文字指導につないでいけないう取り組みこととする。

(3) 低学年における文字導入

渡辺麻美子（2017）は英語学習を助ける文字指導を「授業の中で絵本の読み聞かせをたっぷりし、また自然に文字を目にする環境を大切にしながら英語の文字に気づき、意欲を育てること」と提唱する。つまり、表 8 のようにまとめられる。

さらに、柏木加寿子（2016）は音声から文字指導する際の順序をステップ 1～5 に示し、英語を初めて学ぶ学習者がステップ 1 の「歌や絵本を聞く」段階とする。本学級児童は英語学習 3 年目であることを考えると、次のステップ 2 の「アルファベット大文字の形認識や名前読み、歌や絵本を聞くこと」の指導が可能な段階だと考える。

これらのことから、本学級児童が文字学習することに十分な時期であると考え、アルファベット文字の音声に慣れ親しんだり読んだりして、コミュニケーション能力の素地を育む。

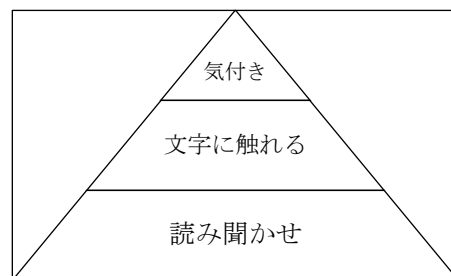
表 6 本活動の前段階の内容

- ・歌やチャンツの中で文字の読み方に親しむ。
- ・文字の形を指で作る。形に着目して仲間分けをする。

表 7 小中連携における中学校の課題

- ・小学校から外国語活動が始まっており、「聞くこと」や「話すこと」には積極的に取り組める。
- ・アルファベット大文字・小文字の区別、ローマ字を「書くこと」、単語（文章）を「読むこと」を苦手としていた。

表 8 英語学習を助ける文字指導



5 学び合い

児童が他者とやりとりや発表、コミュニケーションを図る中で共感、比較、討論などをする活動を「学び合い」と呼ぶこととする。児童が他者と思いや考えを伝え合いたい、コミュニケーションを取りたいと思う意欲があって学び合いの授業が成り立つと考える。

本学級は「恥ずかしいから」「緊張するから」という理由で、学び合いの苦手さを感じている児童がいる。更に、「自分の考えを反対されるから」「発表しているとき聞いてもらえないから」という理由で学び合いの授業がうまくいかない要因にもなっている。

そこで本研究では、土谷が提唱する表2の日常的にペア活動を取り入れ、話すことに慣れるよう促す。また、iPadをペアで活用し、グループや全体でのやりとりや発表での言語活動につなげ、コミュニケーション能力の素地を育みたいと考える。

6 ICT活用

ICT活用は、英語学習において、音声と文字を結び付ける活動で効果的である。また、学び合いをする際、児童の作品等を画面上で見ながらやりとりや発表できる利点もある。本研究では、以下の2点を活用し、授業力の向上につなげる。

(1) 電子黒板

電子黒板はボード上にコンピュータ画面を投映し、付属のペンで画面を操作出来る装置である。教師用iPadの画面をボードに映し、教師の説明や児童の作品を全体で学び、発表する場面で使用する。また、国際交流のときコンピュータ画面をボードに映し、児童が視覚的・聴覚的に理解し言語活動を活発にする体験活動に効果的であると考え。

(2) iPadの授業支援アプリ「ロイロノート」や「ABC Alphabet Phonics」、「Alphabet Cards」

タブレット端末iPadの授業支援アプリ「ロイロノート」は、児童の主体性をのばす最適なツールである。カードや写真、動画を教師に送り全員で共有し(図3)、児童の考えを学び、発表する場面で有効である。「ABC Alphabet Phonics」や「Alphabet Cards」は音声がついたフラッシュカードで、音と視覚を通しアルファベットに触れることができる。本研究では二人に1台のiPadを利用し、児童の学び合いを深めた。

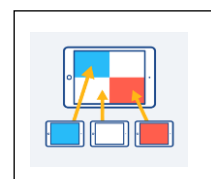


図3 全員で共有
ロイロノート web より

Ⅲ 指導の実際

1 単元名「アルファベットであそぼう」

2 単元目標

- (1) アルファベットの文字表示が身の回りにたくさんあることを知る。
- (2) アルファベットの文字に慣れ親しむことを通して、対話やクイズで英語のやりとりを楽しむ。
- (3) 友だちと積極的に自分の思いや考えを伝え合おうとする。

3 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気づき
意欲的に活動に取り組み、友だちと会話しようと努力している。	実物などをみせながらアルファベット文字に触れ、簡単な英語表現に慣れ親しむ。	簡単な英語表現を活用して、自分の言いたいことに言い替えることができる。

4 指導計画と評価方法

時	◎ねらい ・ 主な学習活動 [学習形態]	主なフレーズ T:先生 S:児童	評価規準 【観点】・方法	ICT
1	オリエンテーション ◎iPadの基本操作や「ロイロノート」の使用方法・決まりを理解することができる。 ・実際にタブレット端末「ロイロノート」や英語アプリを活用し、操作に慣れる。[ペア]	S:One, please. T:Here you are. S:Thank you. T:You're welcome.	意欲的に活動に取り組んだか。【関心・意欲・態度】	電子黒板 iPad (ロイロ)

2	◎アルファベットの文字を探そう。 ・身近にはアルファベット文字の表示が多くあることを知り、身近な店や標識などのアルファベット文字の表示を読む。 ・身の回りにあるアルファベットの文字を探し、グループで共有する。[ペア→グループ] ・「ロイロノート」に送り、見つけたアルファベット文字の読み方を確認する。[全体] ・「Alphabet Cards」アプリで文字の読み方が発音されるのをシャッフルに聞いて、発音する。[ペア] ・学習の振り返り	T:What's this ? S:This is ○○○. S:○・○・○.	言語活動の行動観察【慣れ親しみ】 ・自己評価	電子黒板 iPad
3	◎カリスタ小学校の友だちと仲良くなろう。[全体] (オーストラリアとスカイプ交流) ・自己紹介や名前プレートからイニシャルを当てる。 ・カリスタクイズを聞いたり答えたりする。	S:My name is ~. S:I like ~ (スポーツや食べ物) .	意欲的に活動に取り組んだか。【関心・意欲・態度】 ・自己評価	電子黒板 教師用PC
4	◎アルファベットの文字を作ってみよう。 ・アルファベットの文字を体で作る。[ペア] ・「ロイロノート」で写真を撮り、先生へ送る。 ・アルファベットの体文字を考える。[全体]	T:What's this ? S:This is ○○○.	意欲的に活動に取り組んだか。【関心・意欲・態度】 ・自己評価	電子黒板 iPad
5	◎イニシャル名刺を作ろう。 ・名前の頭文字（2文字）を友達に尋ねて集める。[全体] ・名刺プレートにイニシャルを貼る。[ペア→全体] ・自分のイニシャルを紹介する。[グループ] ・学習の振り返り	S:○and○,please. T:Here you are. S:Thank you. T:You're welcome. S:My name is ~. S:I like ~ (スポーツや食べ物) .	言語活動の行動観察【気づき】 ・自己評価	電子黒板 書画カメラ iPad
6	◎同じアルファベット文字を持つ人を探そう。 ・自分のイニシャルを伝える。[全体] ・同じイニシャルを持つ人を探す。[全体] ・「ABC Alphabet」アプリで、聞こえてくるアルファベットの文字を探す。[ペア] ・学習の振り返り	S:My name is ~. ○and○.	言語活動の行動観察【気づき】 ・自己評価	電子黒板 書画カメラ iPad
7・8 本時	◎サンタさんへ手紙を書こう。 ・お手紙を書く（文字を使つての指導） ・欲しいものを「ロイロノート」のお絵かきで表す。 ・動画を撮り、発表練習をする。[全体] ・学習の振り返り	Santa への手紙 	意欲的に活動に取り組んだか。【関心・意欲・態度】 ・自己評価	電子黒板 iPad
9	◎欲しいものを伝えよう。 ・発表練習をする。 ・欲しいものを伝える。[グループ] ・「ABC Alphabet」アプリで、聞こえてくるアルファベットの文字を探す。[全体] ・学習の振り返り	Santa への手紙	言語活動の行動観察【気づき】 ・自己評価	電子黒板 書画カメラ iPad
10	◎アンケート		・アンケート調査	電子黒板 iPad

5 本時の指導

(1) 本時の目標

手紙を書いたり、ロイロノートでお絵描きや発表練習したりすることができる。

(2) 本時の評価

サンタさんへ手紙を書き発表練習するなど、意欲的に活動に参加することができる。
(行動観察・ワークシート)

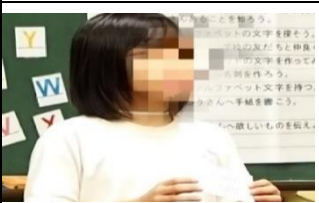
(3) 本時の指導計画 (7・8/10)

過程	学習活動	ICT教材 教具の提示	◇指導上の留意 ◎評価等
挨拶 (10分)	1 Greetings (1) Class room reader. Let's start English class. (2) 天気、曜日、日付を確認する。 (文字を使つての指導) ・How's the weather today ? ・What day is it today ? ・What's the date today ?  授業の流れ一覧	・電子黒板 ・授業の流れ一覧 ・絵カード	◇元よく挨拶を交わし、授業へのモチベーションをあげる。 ◇日直や発言した児童を称賛する。
導入 (15分)	2 Let's sing songs. (文字を使つての指導) 子犬のBingo Alphabet songs 3 Let's listen and read. (文字を使つての指導) Brown bear, Brown bear, What Do You See? (Eric Carle)の絵本を読み聞かせする。 4 Rules (文字を使つての指導) (1) Listen carefully. (2) Don't be shy. I can do it. (3) Let's help each other.  子犬のBingoを歌っている場面 5 前回の振り返り 6 めあての確認 Today's goal : サンタさんへ手紙を書こう。	・TV ・PC ・ピクチャーカード ・ルール表 ・前回のワークシート	◇元気に歌うことを促す。 ◎活動を楽しみ、歌ったり、発言しようとしていたりしている。  Rules ◇児童の振り返りを話すことで、自信ややる気を高めさせる。
展開 (50分)	7 Activity1 手紙を書こう。(文字を使つての指導) 活動の手順を説明する。 (1) 欲しいものをカードに書く。 (2) 1の児童はロイロのお絵描きソフトで欲しいものを絵に表す。 2の児童はカードに手紙を書いたり、飾りつけをしたりする。 (3) 1・2の児童の作業を入れ替える。 (4) 片付けをする。 8 Activity2 発表練習をしよう。 (1) その場で声を出して練習する。 9 「ABC Alphabet」アプリをする。  ペア活動の場面	・クリスマスカード ・折り紙 ・画用紙 ・iPad	◇活動の手順を丁寧に説明する。 ◎進んでお絵かきや発表練習をしている。  発表練習場面
まとめ (15分)	10 アルファベットの文字を順に並べよう。(全体) 11 振り返りをする。 12 終わりの挨拶をする。 Let's finish English class.  文字並べをしている場面	・アルファベットカード ・ワークシート	◇読み上げながら振り返りをする。 ◇「文字を使つての指導」とは、手紙や絵カード等にアルファベットの文字を表示していることを指し文字を視覚的、感覚的に捉えさせる。

6 仮説の検証

本研究では、コミュニケーション能力の素地を図ることを目的に、ICTを活用した学び合いの授業実践を行った。副題の「ICTの活用」と「学び合い」を通した授業実践が、児童のコミュニケーション能力の素地を育むことにつながったか、児童の行動観察や学習の振り返りシート、アルファベット文字に関する調査、児童の意識調査等から変容を検証する。

(1) 授業における児童の変容から

時	学び合い形態	児童の様子と ICT 活用場面	児童の変容 (☆振り返りシート★行動観察)
1	ペア		★ペアで協力しながら iPad 操作をしていた
2	ペア→グループ→全体→ペア	 身近にあるアルファベット文字を見て全員で確認している場面	☆アルファベットの文字がこんなにあるとは気づかなかった☆皆で一緒にやるととても楽しく授業が受けられるということが分かった☆アルファベットの大文字や小文字を学びたい
3	全体	 カリスタ小児童に学校紹介をしている場面	★他者に伝える意欲が見られた★クイズに答えようと必死に聞き取る姿が見られた  カリスタ小児童の質問に答えようとしている場面
4	ペア→全体	 アルファベットの体文字ができていないか確認している場面	☆Sの体文字が出来なかったけど、友達から習ってできた☆二人でやってみたらできたので嬉しかった★○○さんと協力したから体文字ができた
5	〈教師⇄児童〉→全体→ペア→全体	 名刺を見せ自分の名前と名前の頭文字を発表している場面	★なかなか言えない児童は、指でアルファベット文字をさしてシールをもらうことができた★全児童が皆に簡単な自己紹介をすることができた  自己紹介の練習場面
6	全体→〈児童⇄児童〉→ペア	 自己紹介の練習をしている場面	☆同じアルファベットを持つ人が誰か分からなくて困っていたら、○○さんが声をかけてくれた☆同じアルファベットの文字を持つ人を見つけようと努力した☆同じアルファベットの文字を持つ人がいたので嬉しかった☆みんなの前で話ができ、楽しかった
7 8	個人→全体	 声に出して発表練習をしている場面	☆サンタさんからもらいたいものを書けた。声に出すのがちょっと言えなかったけど、だんだんできたから良かった☆絵の力も英語の力も生まれた。この2つの力はサンタさんのプレゼントかもしれない  手紙
9	グループ→全体	 グループで発表し合ったらとても気持ちよく、発表するのが楽しかった☆自分の発表をするのは恥ずかしかったけど皆の発表を見ていたら元気が湧いて勇気も出てきた☆きはきはと発表でき、成長したと思った☆皆の前で発表できたから嬉しい	
10	まとめ (アンケート)		☆検証授業を楽しんでいて、もっと一緒に英語の勉強をしたいとの声があった

児童の感想から、ペアでの学び合いを楽しんだことが分かる。児童は他者に自分の思いや考えを伝えようと、言葉によらないジェスチャーや表情も含め、言語活動が活発に行われていた。ペア活動の場面を増やすことで他者とのやりとりに慣れ、グループや全体学習で意欲的にやりとりや発表をすることができたと考えられる。

以上の事から、ICTを活用した学び合いの授業実践は、意欲的に児童同士のやりとりや発表することにつながり、児童のコミュニケーション能力の素地を育むことに有効だったと考える。

(2) 学び合い形態における児童の変容から

それぞれの学び合い形態の学習が「好き・どちらかと言えば好き」な児童の変容を検証前後で比べる（表 9）。

毎時間、ICT をペアで活用し、やりとりや発表をした。土谷が提唱する（表 2）ペア学習での活動を多く取り入れ、グループ、全体学習につなげたことが児童の話すことに対する苦手意識を克服し、学び合うことを好きになる児童を増やしたと考える。

検証前後で変容の大きい児童 4 名を抽出すると、児童が発表することに自信を持ち、やりとりや発表のしやすい居心地の良い学級の雰囲気になっていることが分かる（表 10）。

表 9 学び合いは好きですか。

	検証前	検証後	上昇↑
ペア学習	62%	86%	24 ポイント
グループ学習	71%	97%	26 ポイント
全体学習	45%	73%	28 ポイント

表 10 児童 4 名の変容

	学び合い形態	検証前	検証後
A 児	ペア	恥ずかしいからどちらかと言えば嫌い	大きな声で言えるし話しやすいから好き
B 児	ペア	恥ずかしいから嫌い	自分の意見を話せるから好き
C 児	全体	話を聞いてくれないから嫌い	皆が笑ったり、褒めたりしてくれるから好き
D 児	全体	人数が多いから嫌い	恥ずかしかったけど、発表が終わったらすっきりしたから好き

以上の事から、日常でペア学習を多く取り入れグループや全体学習につなげたことは、児童が意欲的にやりとりや発表することにつながり、コミュニケーション能力の素地を育んだと考える。

(3) ICT を活用した授業の工夫から

① 電子黒板

授業では、児童が「ロイロノート」で撮った写真やお絵描きを教師に送信させた。ペアで取り組んだ作品を送信すると、児童や教師が電子黒板で確認することができ限られた時間に有効だった。作品を送信した後、他のペアの作品を見て互いにやりとりをするなど言語活動している場面もあった。テレビ会議システム（Skype）での国際交流においては、向かい合って活動し、互いの文化の違いを知ることができ言語活動が充実した。児童の感想では「カリスタ小学校との交流が楽しかった」とあった。

② iPad の授業支援アプリ「ロイロノート」や「ABC Alphabet Phonics」「Alphabet Cards」

iPad をペアで一台使用した。「ロイロノート」の写真や動画、お絵描きをし、教師へ送信させた。アルファベットアプリを使う際はペアに方法を委ねたので、一緒に取り組む、交代でやるという 2 通りに分かれた（図 4）。毎時間アプリで学習すると慣れから音声を聞かず、タップする児童がおり、活動方法を示す必要があった。児童の感想では「パートナーと遊んで楽しかったし楽しさが分かり、パートナーの気持ちが分かった」「英語を知っていたけど、iPad を使うと学習が楽しかった」「前より英語のことが分かったし、iPad を使うと英語に興味を持った」と回答があった。



図 4 iPad のアプリ活用場面

以上の事から、ICT を授業で活用することは、視覚的・聴覚的に効果があり、児童の言語活動を活発にし、コミュニケーション能力の素地を育んだと考える。

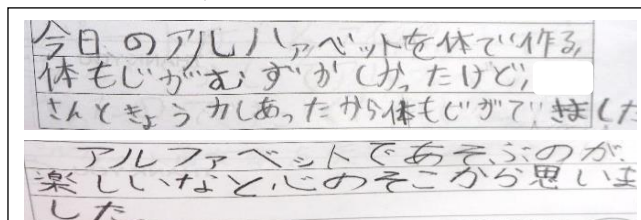
(4) アルファベットの文字認識の学習から

本研究では、初めて文字学習をする児童に易しい活動となるよう以下の 5 点に絞り、アルファベットの文字認識をすることにした（表 11）。

表 11 文字学習の内容

- 1 歌や絵本を通して、文字に触れる。
- 2 身の周りのアルファベット文字探しをする。
- 3 アルファベットの体文字遊びをする。
- 4 同じ名前の頭文字を持つ人探しをする。
- 5 iPad のアプリ「ABC Alphabet Phonics」「Alphabet cards」を使う。

表 12 児童のワークシート



児童のワークシートの感想から、文字学習を通して、児童のコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度が見られた（表 12）。児童は文字を書くことに興味を持ち、文字学習を進めていくうちに、授業後のワークシートに自分の名前をローマ字で書くようになる姿が見られるようになった。

アルファベットの文字認識調査では、検証前平均 21 文字から検証後 25 文字のアルファベット文字を認識することができた（図 5）。アルファベットの文字を書く活動においても、検証前平均 10 文字から 19 文字と大きな伸びだった（図 6）。

以上のことから、音声と文字を結び付けた文字指導は有効であり、児童の学習意欲の高まりや児童同士の学び合いが深まったことから、コミュニケーション能力の素地が育まれたと考える。

(5) 児童の英語学習への意識調査から

「英語が好き・どちらかと言うと好き」な児童が 27 名から 28 名に増えた。検証前、英語学習を「どちらかと言うと嫌い・嫌い」と回答した児童 2 人の変容を検証前後で比較する（表 13）。

表 13 児童 2 人の検証前後の変容

	検証前	検証後
A 児	どちらかと言うと嫌い はずかしいから	好き ペアで学びあって良く分かり助け合ったので iPad を使った授業が楽しかった
B 児	嫌い 嬉しくも楽しくもないから	どちらかと言うと嫌い iPad を使ったおかげで英語の色々なことを知ったので楽しかった

以上のことから、ICT を効果的に活用した学び合いは、児童が意欲的な学び合いにつながり、児童のコミュニケーション能力の素地が育まれたと捉えることができる。

IV 成果と課題

1 成果

- (1) iPad をペアで活用し、学び合いの場面を増やしグループ・全体学習につなげることで、協力することや他者の気持ちに寄り添い、意欲的にやりとりや発表をし、コミュニケーション能力の素地を育むことができた。
- (2) 教育課程特例校の強みを生かし、児童がアルファベット文字を音声で慣れ親しんだり読んだりすることで、「聞くこと」の力をつけ楽しみながら学び合い活動することにつながった。

2 課題

- (1) 児童が自信を持って堂々と発表することのできるよう、ICT を含めた教材・教具の準備や工夫をしていく必要がある。
- (2) 教育課程特例校における低学年の英語学習で文字導入が可能であり、新学習指導要領において中・高学年、中学校への学習に円滑に接続することができるよう研究を深める必要がある。

〈参考文献〉

- 池田周 2017 『英語教育 11』
- 文部科学省 2017 『小学校学習指導要領解説 「外国語活動編」(平成 29 年 7 月)』
- 文部科学省 2017 『小学校学習指導要領解説 「外国語編」(平成 29 年 7 月)』
- 北谷町 第 1 回英語教育等担当者研修会資料 2017
- 沖縄県立総合教育センター 2017 『平成 29 年度 前期長期研修員研究報告書』
- 大城賢・深澤真 2017 『小学校教員のための中学校英語免許認定講習講義資料～英語科教育法Ⅱ』
- 渡辺麻美子 2017 『英語教育 2』
- 土谷匡 2016 『英語教育 12』
- 若竹孝行 2016 『はじめて受ける英検 Jr. スーパードリル シルバー』J リサーチ出版
- 沖縄県立総合教育センター 2016 『平成 28 年度 後期長期研修員研究報告書』
- 京都教育大学附属桃山小学校 2016 『英語教育研究』
- 中村典夫 2014 北海道教育大学釧路校『小中を連携させる効果的な文字指導に関する研究』公益財団法人 日本英語検定協会 委託研究
- 平岡昌子 2012 『小学校英語活動における文字指導に関する研究』
- 村野井仁 2007 『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』
- 村野井仁・千葉元信・畑中孝實編 2003 『実践的英語教育法』

〈参考 URL〉

- 伊東 治己 外国語における文字の扱い再考 2013
- www.naruto-u.ac.jp/repository/file/561/20161116141743/se04004.pdf (最終アクセス 2018 年 3 月)
- 文部科学省 2017 教育課程特例制度
- http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokureikou/1284967.htm (最終アクセス 2018 年 2 月)
- 西川純 学び合いについて 2013
- <http://freedyao.wixsite.com/tabler/manabiai> (最終アクセス 2018 年 2 月)
- 佐藤学先生と学び合いの授業 2013
- <http://educatejapan.blogspot.jp/2013/03/blog-post.html> (最終アクセス 2018 年 2 月)